

EBM

高橋 芳幸

2016/01/06

緯度方向一次元エネルギーバランスモデル (Energy Balance Model; EBM) では、惑星の熱収支は惑星表面温度で記述できると考え、その熱収支は下の方程式で記述できるとする。

$$C \frac{\partial T(\theta, t)}{\partial t} = F_S + F_L + \left(\frac{\partial T}{\partial t} \right)_{\text{transfer}} \quad (0.0.1)$$

ここで、 θ, t はそれぞれ緯度、時間である。 $F_S, F_L, \left(\frac{\partial T}{\partial t} \right)_{\text{transfer}}$ はそれぞれ、正味短波放射フラックス、正味長波放射フラックス、南北熱輸送による単位面積当たりの加熱であり、 C は熱容量である。

定常状態を求めるために、左辺をゼロとすると、

$$0 = F_S + F_L + \left(\frac{\partial T}{\partial t} \right)_{\text{transfer}} \quad (0.0.2)$$

また、短波放射、長波放射を下のように表すことにする、

$$F_S = (1 - \alpha(\theta)) F_0 s(\theta) \quad (0.0.3)$$

$$F_L = A + BT(\theta) \quad (0.0.4)$$

ただし、 α はアルベド、

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} s(\theta) \cos(\theta) d\theta = 1 \quad (0.0.5)$$

であり、 A, B は定数である。

また、南北熱輸送は、一般に下の二つの形式で表現される。

$$\left(\frac{\partial T}{\partial t} \right)_{\text{transfer, Budyko-type}} = -C(T(\theta) - \bar{T}) \quad (0.0.6)$$

$$\left(\frac{\partial T}{\partial t} \right)_{\text{transfer, Sellers-type}} = -\frac{1}{\cos \theta} \frac{\partial}{\partial \theta} \left(-D \cos \theta \frac{\partial T(\theta)}{\partial \theta} \right) \quad (0.0.7)$$

ここで、 C, D は定数であり、

$$\bar{T} = \int_0^{\frac{\pi}{2}} T(\theta) \cos \theta d\theta \quad (0.0.8)$$

である。